

共働き家庭の  
変化と喜び



増原さみファミリー

父 洋さん  
母 真緒さん  
長男 奏志くん(年長)  
長女 綺音ちゃん(2歳)

**Q 子育てにおいて、夫婦共働きで大変なことは何ですか？**

毎朝晩時間に追われていることです。もっと子どもたちに時間と心の余裕を持って接してあげたいと思いつつも、仕事と家事に追われて結局時間との勝負。子どもたちに挟まれて布団に入る瞬間は「今日も余裕がなくてごめんね」と思うことが多いです。

**Q コロナ禍、家族全員で気をつけていたことはありますか？**

我が家は平日の帰宅時間が遅いため、毎週日曜日に1週間分の食材を買いだめしています。いつもなら家族揃って、息子の好きなお団子を選んで買ったり、夫のお酒やおつまみを選んだりする時間だったのですが、特に第1波の流行時期は親1人で買い物に行っていました。保育所も登所自粛の願いがありました。実際には2、3日しか自粛できず、子どもが半分ほどの人数になつた保育所へ変わらず通わせてもらっていました。仕事が休めない環境の中、感染対策をしながら早く預かってくださった保育所の先生方に感謝しています。

**Q 最近のおうちでの過ごし方**

「鬼滅の刃」は家において時間を持て余したからこそ「息子と同じクラスの友達に教えてもらって気になっているから見てみようか」という話になってハマりました。あとは幼児期〜学童期用のカードゲームを楽しんだり、絵本の『ミッケ!』や息子が保育所から借りてくる『〇〇の迷路』シリーズの隠し絵をみんなで探したりして楽しんでいます。

子どもたちが感染しないよう親も互いの趣味や楽しみを制限したり楽しみ方を見直し、悩んだときには相談し合っています。

**Q 習い事の空手をはじめたきっかけ、通わせてよかったことを教えてください。**

きっかけは「鬼滅の刃」が好きで息子が「強くなりたーい」と言ったこともありません。そんなとき、ちょうどテレビで空手選手のことを取り上げられていて、食い入るように観ていた息子に「習うことができないよ。体験行ってみる？」と問いかけたところ予想以上に「行く行く」と前向きだったため知人から情報を得て道場探しをしました。

良かったことと言えば、練習場所が4月から通う小学

松江市在住の増原さんファミリーは、夫婦ともにフルタイムで勤務する共働き世帯です。子どもたちは自宅近くの保育園に通っています。現在抱えている子育ての悩みやコロナ禍での過ごし方、これからの暮らしについて、インタビューに答えていただきました。

**Q 夫婦お二人のご両親は近くにお住まいですか？**

はい、近居です。両家とも現役共働きなのでいつもでも見てもらえる環境ではありません。しかし、子どもの体調不良などでどうしても困ったときに互いに互いに時間を調整して協力をお願いできることもあり、とても助かっています。また、いつでも会える距離だからこそ週末には一緒にご飯を食べたり、子どもたちと遊んでもらったりすることができると、子育ての悩みなどを聞いてもらえるため感謝しています。

**Q 真緒さんは育児休業中はどのように過ごしていましたか？**

最初の子どもの時の日課はお散歩でした。特に夕方になるとぐずぐずやんちゃが始まるため、夫が帰宅するまでの一時間程度、付近をベビーカーや抱っこでお散歩していました。小雨の日でも出ていきましたが、同じ場所でも四季折々の風景が見え、息子とともにその時間を楽しんでいくことを思い出します。

2人目の育児休業中はスキルアップにいそいそしていました。娘が良く食べ、良く寝て、ご機嫌に遊ぶ乳児期だったため、娘を隣に置いて声をかけながら自身は勉強...という状況で、正直育児休業中なのに忙しく、大変でした。そんな中、親しい友人と偶然出産期が重なり、定期的なおしゃべり会をして互いの子どもの成長を喜び合うことができ、それが楽しみな毎日でした。

校だったので、先輩のお兄さんお姉さんと早くから関わりを持つことができたところ。いつも優しくお世話してもらって嬉しく思っています。親としては保育所生活からの就学という、人生で一番不安を抱くかもしれない時期にこの場所があるから大丈夫。楽しみがあるから頑張れる」と思える場所を作っておいてあげたいという思いもあつたため、楽しそうに通っていることがうれしいです。

**Q 家族と一緒に過ごす時、幸せだなと感じる瞬間を教えてください。**

他愛もない話で笑う瞬間や、子どもたちの見える「かわいー!」と思える瞬間を夫婦で共有できる時です。お散歩などの時にみんなで手をつないで歩く時間や、普段は夫婦のどちらかが子どもたちと寝るところを、時々みんな一緒に布団に入る瞬間が幸せです。



一畑薬師までお出かけ!



一緒に楽しい!

**Q 今年度はどんな年にしたいですか？**

まずは新型コロナウイルス感染症が収束し、家族で安心して過ごすことのできる環境になることを心から願っています。息子は就学する年なので、少しでも日々を安心して過ごせるようにしてあげたいこと、できれば就学をきっかけに日々のタイムスケジュールも見直したいです(笑)。そして何より、家族仲良く健康に過ごせますように...



大自然がいっぱい!

**Q 今年は新型コロナウイルス感染症が流行しました。日常生活に変化はありましたか？**

今こそ、良くも悪くも新しい生活様式や新型コロナウイルスと共存する生活に慣れてきました。島根で流行し始めた当初は子どもたちへの感染が怖く、人がいる場所にはほとんど連れ出さずでした。これまで公園などに遊びに行っていた時間を、室内での遊びに変更したり、穴道湖沿いやソフトビジネスパーク裏の山へ登山、人が少ない日を見計らって川遊びをしたりするなど、公園の遊具のようなモノに触れなくてもその環境を楽しむことができる遊びに切り替えました。

あとは子どもたちと自由に外遊びを楽しむことができなかったことに加え、親のストレス発散源である友人との会食や趣味を楽しむ時間などが制限されたことでしょうか...



八雲町の川で水遊び!

**Q 松江市のこんな支援があつてよかった、こんな場所があるといいな、などあれば教えてください。**

『子育て支援センター』は保育士さんたちとおしゃべりしたり、母親同士の出会いの場にもなつたりして素敵な場所だと思っています。日曜日に空いている場所がもっとあるとなおうれしいです。松江は子どもを連れて友人同士で気兼ねなく集える場が少ないと思っています。お寺を利用したカフェ(てらこやカフェ専念寺)のような、子どもが周囲からの注意を気にせず存分に遊ぶことができ、親同士も日頃の悩みやストレス発散のおしゃべり、子育て相談ができるような場がもっとあるといいです。

**みなさんへメッセージ**

地元の人たち主催で子どもが発散できるスペースも設けながらマルシェなどのイベントが開かれる町もにぎわい、そこでの出会いがあれば人の輪が広がるので、子育てに前向きになれる人が今以上に増えるのではないかなと思います。そしてそんな機会があればわたし自身もぜひ協力し、地域のお母さんたちの子育てに貢献したいです。



取材を終えて

インタビューをしながら、共感できる部分がたくさんありました。どの家庭でもコロナ禍の悩みやストレスはありながらも、それぞれの家庭に合った解消の仕方がある。だからこそ、松江の良さに気づいたり、家族の絆がさらに深まったのではないのでしょうか。子どもを連れて行ける親も楽しめる場所は、本当はたくさんあるはずなのに、そういった情報も集められたいなと思いました。【麻田】